

が敦賀港に寄港



大型クルーズ船停泊している様子

米プリンセス・クルーズ社の大型クルーズ客船「ダイヤモンド・プリンセス」が、平成29年9月2日と10月14日、敦賀市の敦賀港に寄港しました。本稿は、そんな寄港の受け入れを行った現地からの報告です。

■クルーズ客船の誘致・受け入れ

クルーズ客船の寄港による地元経済の活性化が注目され、日本全国の各港が客船誘致に乗り出しています。

敦賀市では、従来からクルーズ客船の誘致・受け入れを行ってきましたが、平成25年3月に行政、企業、観光振興団体から組織される「敦賀みなと振興会」が発足、クルーズ客船の誘致・受け入れを本格化させました。

敦賀みなと振興会では、①ポートセールス事業②歓送迎イベント事業③研修事業を実施しています。

①ポートセールス事業
クルーズ船社キーパーソン・担当者の敦賀への招聘、船社訪問により敦賀港のPRを実施しています。

②歓迎イベント事業

クルーズ客船の寄港時に乗船客向けに歓迎イベントを実施しています。日本各港では、地域の特色を生かしたおもてなしでクルーズ乗船客を歓迎しており、日本の港でしか体験できないおもてなしは外

国人乗船客から高い評価を受けています。敦賀港では、地元学校吹奏楽部による演奏での見送りや、地元団体によるダンス等で乗船客を歓迎しています。また、「人道の港敦賀」のエピソードを体現するノベルティグッズ「リング型タオル」を乗船客に配布し、「ポーランド孤児やユダヤ難民上陸の歴史の紹介とおもてなしを兼ねて実施しています。船社側へは、岸壁停泊中の客船の船内見学会開催をリクエストし、市民がクルーズ客船に親しむための機会を得ています。



リング型タオル配布の様子

大型クルーズ客船

③ 研修事業

クルーズ船受入先進港を視察、振興会会員・関係者向けのセミナーを実施することで、受入側の知識向上と意識醸成を図っています。

敦賀港のクルーズ客船寄港実績(過去5年)

和暦	寄港回数	船名と寄港回数内訳	
平成 25 年	4 回	ばしふいっくびいなす	4 回
平成 26 年	6 回	ばしふいっくびいなす	4 回
		飛鳥II	2 回
平成 27 年	2 回	ばしふいっくびいなす	2 回
平成 28 年	4 回	ばしふいっくびいなす	4 回
平成 29 年	5 回	ばしふいっくびいなす	2 回
		ダイヤモンド・プリンセス	2 回
		飛鳥II	1 回

■「ダイヤモンド・プリンセス」の寄港

ダイヤモンド・プリンセスは平成29年9月2日に初寄港、10月14日に2回目の寄港を果たしました。ダイヤモンド・プリンセスは米国プリンセス・クルーズ社所有の乗客定員約2,700人の客船であり、乗組員を含めると約4,000

人が乗船している大型客船です。乗船客の約7割は外国人であり、中でも欧米系の外国人が多数を占めています。敦賀港では初の大型外国客船の寄港となり、日ごろ外国人観光客の訪問が少ない敦賀においてどのように乗船客を市内へ誘導するかが課題となりました。また、初寄港となる9月2日は、敦賀まつりの開催初日であり、敦賀まつりの魅力をどう伝えるかも課題となりました。

結果として、地元祭り団体協力のもと神事の「宵山巡行」の時間前倒し実施、山車の相生通りへの展示等、乗船客へ向けた特別なおもてなしにより、祭りの魅力を演出することができました。また、港に近い「きらめきみなと館」では敦賀まつりを紹介する「おもてなしフェア」が商工会議所の主催により開催され、乗船客に祭りの雰囲気を感じていただきました。

また、寄港に向け組織した「敦賀港クルーズボランティア」には、観光案内で活躍していただきました。敦賀港クルーズボランティアは、外国人との交流に関心のある市民で組織されていることもあり、当日は外国人乗船客と積極的にコミュニケーションを図っていました。乗船客の中にはボランティアの親切な説明に涙を流して感激する方もいらっしゃったとのこと、

「人道の港敦賀」のエピソードにも通じる、敦賀市民の優しさを世界にアピールできました。

10月14日の2回目の寄港についても、9月の反省点を修正し、大きな問題なく受け入れを実施することができました。



市民参加による出港見送りの様子



神事「宵山巡行」



クルーズボランティアによる観光案内

■今後の課題について

平成29年は、ダイヤモンド・プリンセスの初寄港ということ、関係者の協力のもと大々的なイベントを実施し、歓迎することができました。しかし、今後クルーズ船が継続的に寄港するうえで、寄港ごとに大規模なイベントを実施するわけにはいかず、客船によっておもてなしの質と内容に偏りがあつてはいけません。そこで、敦賀の観光地としての魅力を高め、いっつのような客船が寄港しても一定の満足を感じていただける態勢を整えておく必要があります。

乗船客が市街地を散策するうえでは、例えば、コーヒーが飲める喫茶店やお土産を買える場所、両替設備などが求められるし、支払いの場面ではクレジットカードを使用できることが肝要です。このことは、クルーズ客船対応に特化したものではなく、敦賀に観光客を呼び込むために必要なことですが、今回のダイヤモンド・プリンセス寄港は地元で一定のインパクトを与えたことから、今後官民が協働して受け入れの質を高めていくことが重要だと考えています。

(文責)敦賀市人道の港発信室

西野 泰昭